

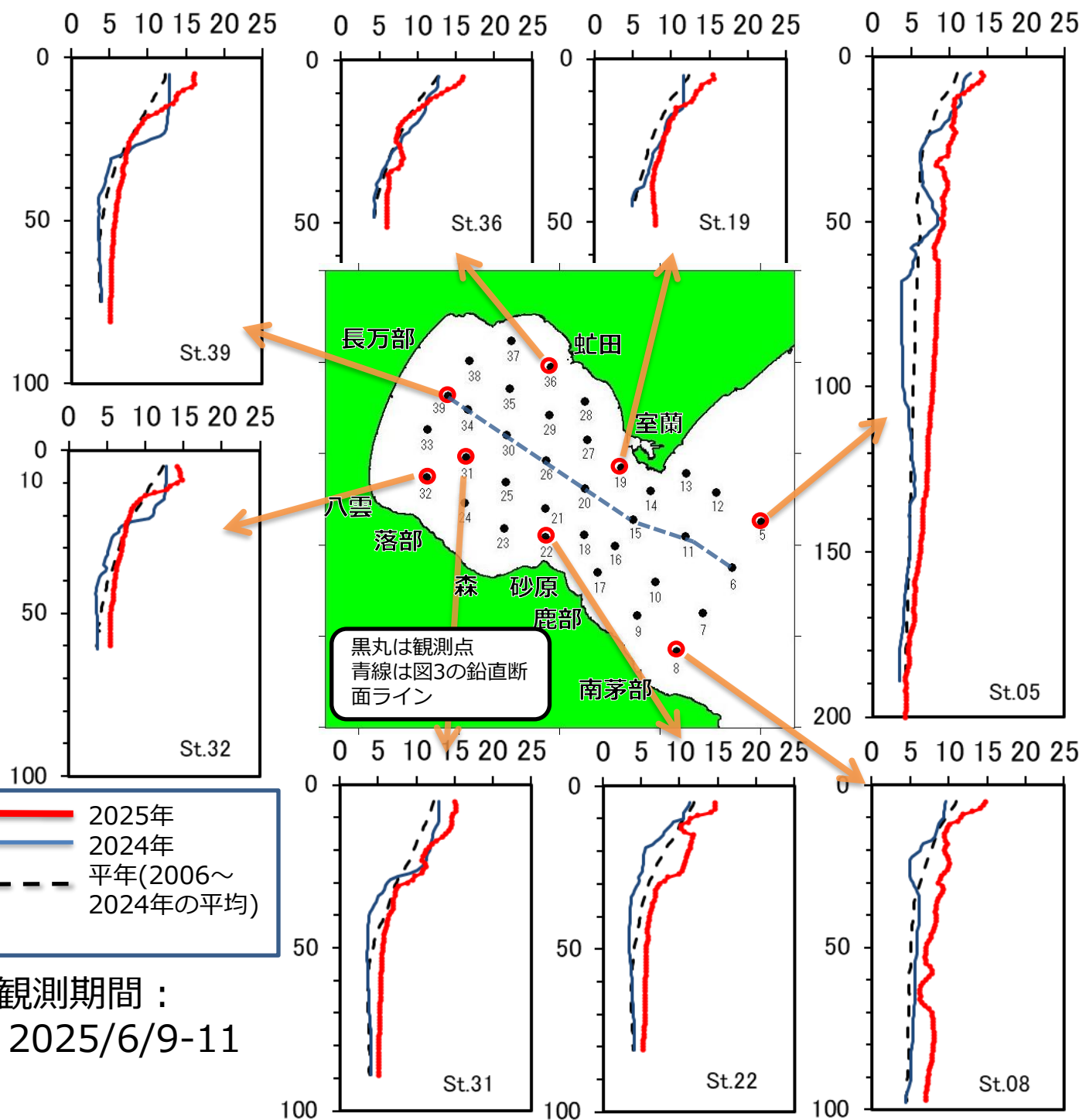


2025年6月9～11日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・潮流の観測結果をお知らせします。  
QRコードからもアクセスできます→

- ・湾内外の表層水温は平年より2～4℃高い
- ・湾内表層は高温・低塩化が進み，時計回りの渦が形成された
- ・2025年夏季の噴火湾における表層水温は平年よりも高くなる見通し

## 【水温・塩分の鉛直分布】

噴火湾周辺の表層水温は14～16℃と，平年より2～4℃高かった（図1）。湾奥（St.32, 36, 39）の水深20-30m層で平年並の水温であった以外は，湾内外の全層で平年より1～4℃程度高かった。



## 【水温，塩分，流向流速の水平分布】

### ■水温・塩分（水深20m）

湾内中央部で水温12℃以上，塩分32.4以下と，周囲と比べて高温・低塩分な水が分布していました（図2AB）。また，湾外には10℃以上・塩分33.6以上の暖流系水が分布していました。

### ■流向流速（水深13m）

噴火湾内表層では時計回りの渦が形成されています（図2C）。

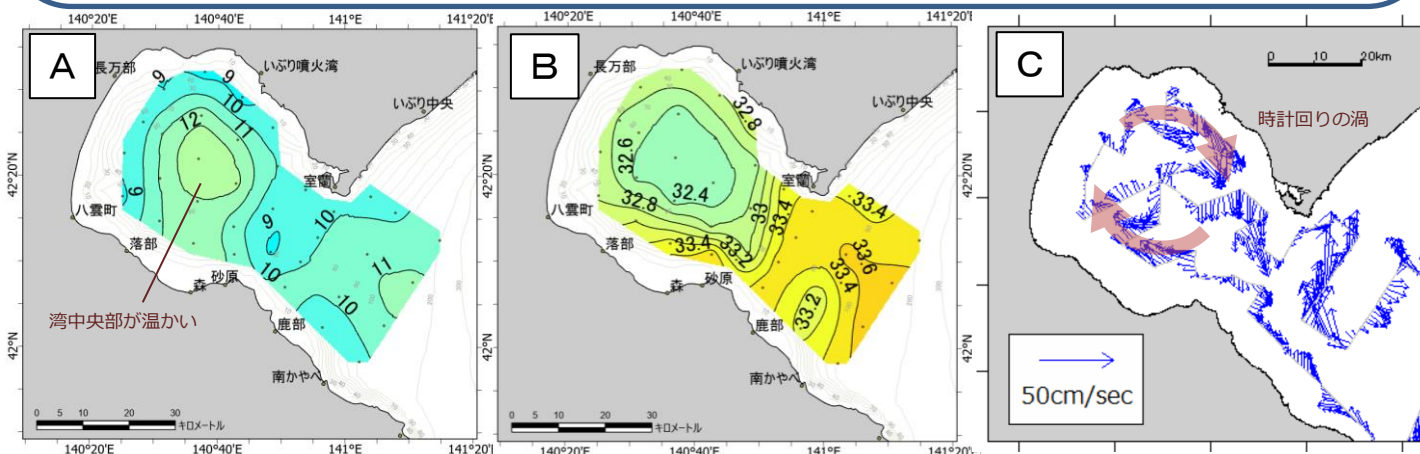


図2 A:水温（深度20m）, B:塩分（深度20m）, C:流向流速（深度13m）

## 【水温，塩分，溶存酸素，密度の鉛直断面】

2025年6月の湾内表層付近の水温は14℃以上，塩分は32.4以下となっています（図3CD）。6月は5月（図3AB）と比べて高温・低塩化し，湾内では30m前後に密度躍層が形成されています（図3F）。溶存酸素は湾奥の水深80m付近で4ml/Lとなっています（図3E）。

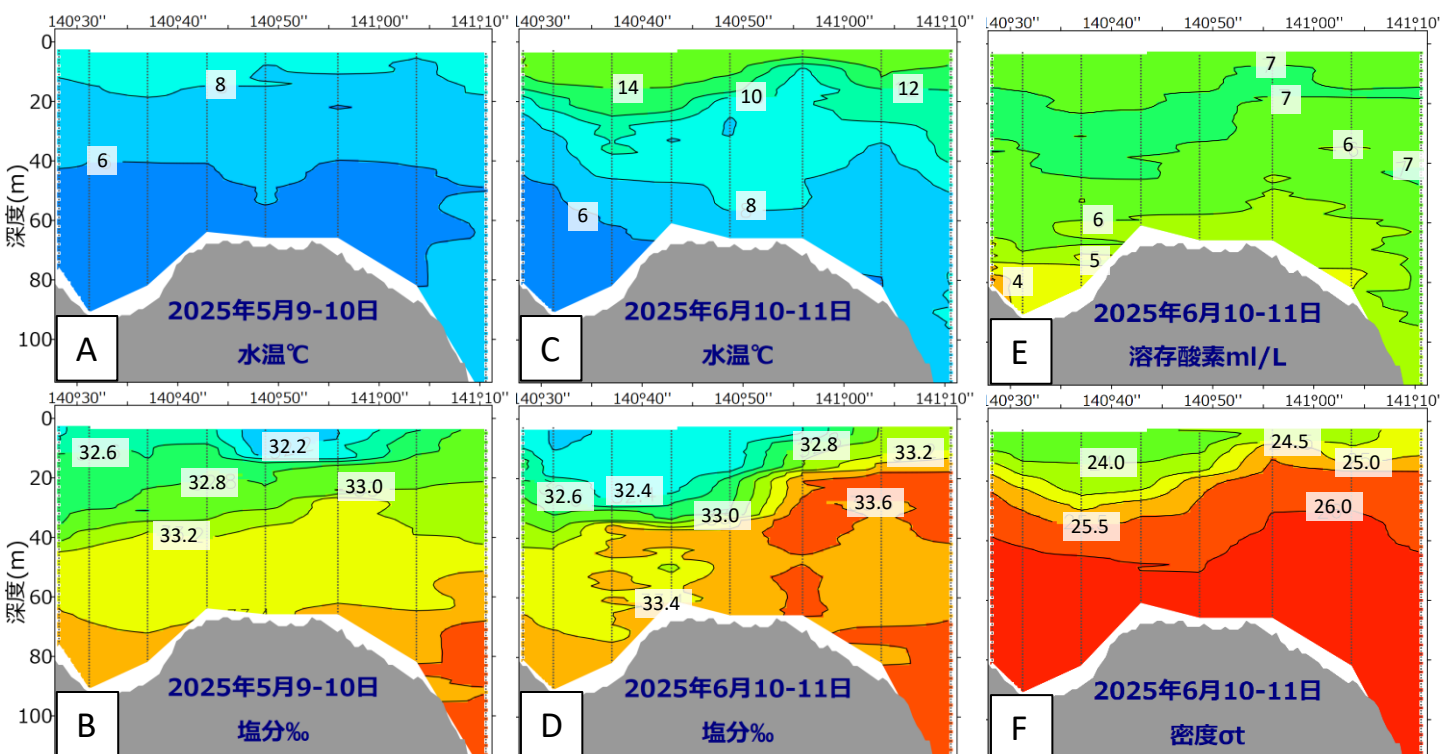
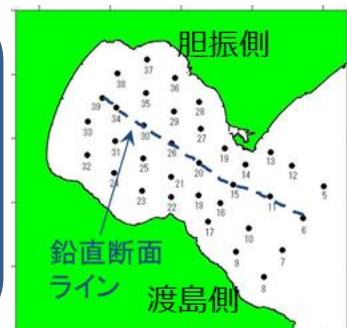


図3 A・B(参考): 2025年5月の水温塩分, C: 水温, D: 塩分, E: 溶存酸素, F: 密度  
※上地図にある鉛直断面ラインを渡島側から見た図です

【湾央における6月水温の経年推移と今後の見通し】

■湾央St31における水温（水深10・20・30m）

湾央定点における2025年6月の水温は、水深10mにおいて2006年以降で最も高くなっていました（図4）。水深20・30mも2006年以降の平均と比べて高い水温となっていました。

■今後の見通し（参考：気象庁の季節予報）

夏季の噴火湾は大気による加熱が継続することによって表層の水温が上昇します。気象庁の[3か月予報](#)（図5；2025年5月20日発表）によると2025年の6～8月は北日本で平均気温が平年より高くなる確率が高いと予測されているため、**2025年夏季の噴火湾表層は平年よりも高水温となる可能性が高い**と考えられます。

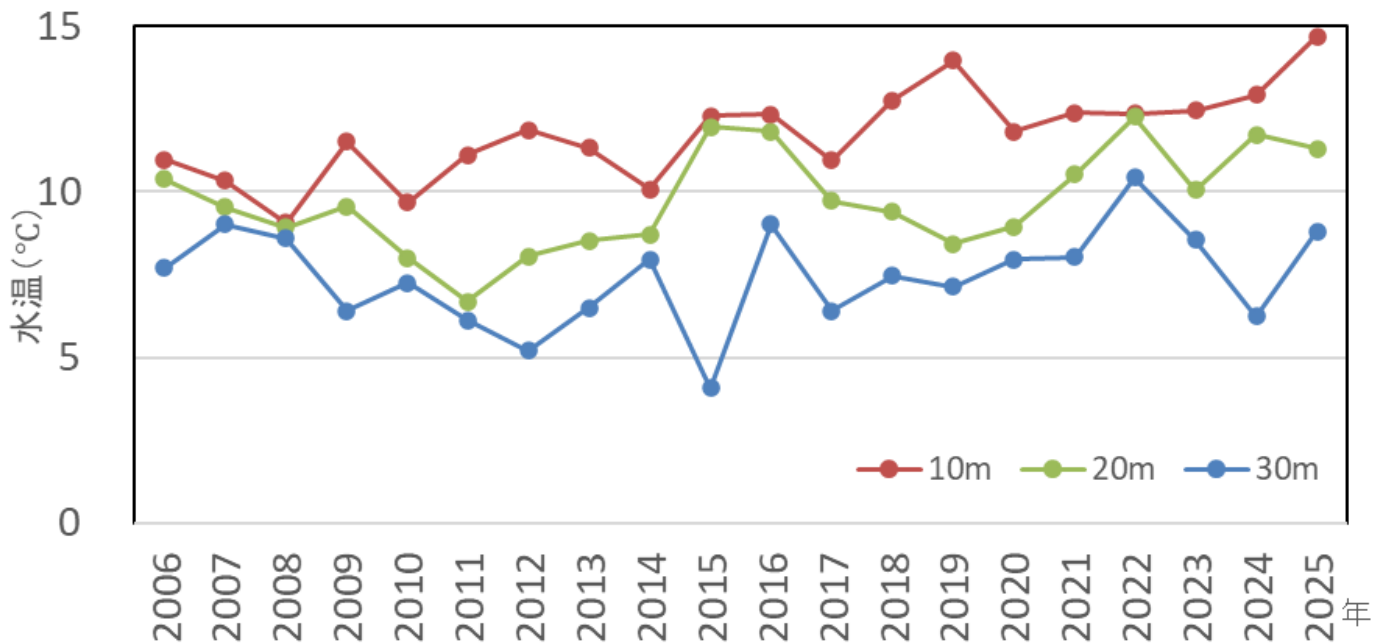


図4 湾央St31における6月水温の年推移（赤：10m・緑：20m・青：30m）

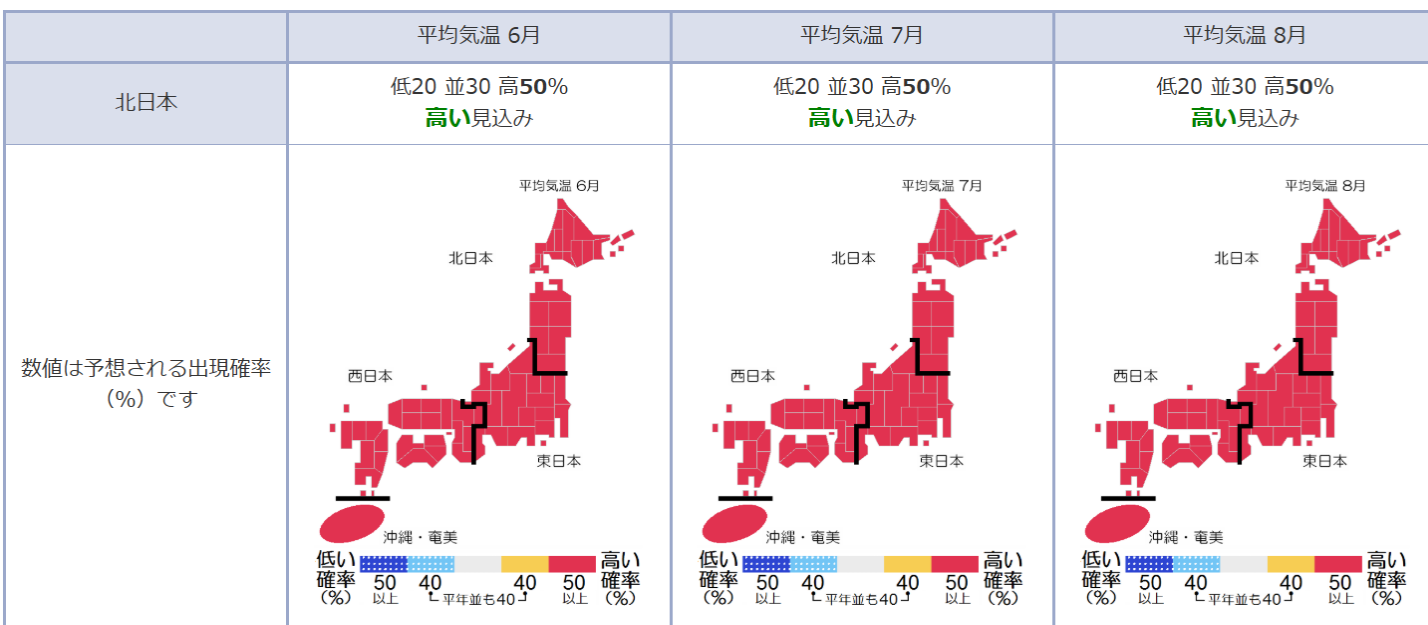


図5 2025年夏（6～8月）の予報（[気象庁HP](#)2025年6月13日閲覧；北日本を抜粋）